

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

平成24年7月2日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 辻井昭雄様

所属部局・研究科 医学研究科社会健康医学系専攻医療経済学分野

職名・学年 専門職1年

氏名 朴声哲 (パクソンチョル)

助成の種類	平成24年度 ・ 若手研究者在外研究支援 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	第4回アメリカ医療経済学会		
発表題目	急性期心筋梗塞における病院医療費と質との関係		
開催場所	アメリカ、ミネソタ州、ミネアポリス、ミネソタ大学		
渡航期間	平成 24年 6月 10日 ~ 平成 24年 6月 13日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	200,000円	
	使用した助成金額	200,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	航空賃	138,090円
		学会参加費	35,000円
		宿泊料	26,910円
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)		

国際研究集会派遣助成報告書

医学研究科 社会健康医学系専攻 医療経済学分野 専門職1年 朴声哲(パクソンチョル)

学会名: 第4回アメリカ医療経済学会

期間: 平成24年6月10日～平成24年6月13日

場所: アメリカ、ミネソタ大学

成果の概要

私は、京都大学教育研究振興財団の国際研究集会発表助成プログラムにより、平成24年6月10日から6月13日までの間、アメリカのミネソタ大学で開催された第4回アメリカ医療経済学会(4th Biennial Conference of American Society of Health Economists)に参加しました。この学会は名前の通りアメリカ学会であり、規模はとて大きく、また、経済学だけではなく、社会学、経営学、医学など、様々な分野の研究発表が行われました。

第4回アメリカ医療経済学会に参加し、得た成果は以下になると考えられます。

- 世界中の研究者や学生が一同に介し、医療経済に関する多様な研究に接し、学びを深めたこと
- 様々な国からの研究者と話し合う機会を持ったこと
- 今後の医療経済的な問題に関してお互いに議論できたこと
- 研究における科学的に妥当な方法論を学ぶこともできたこと

アメリカ医療経済学会について

自分が参加したアメリカ医療経済学会(American Society of Health Economists)は約800人が集まり、600件以上の口頭発表やポスター発表が行われる大きな医療経済学会でした。アメリカで開催されたアメリカの学会でしたが、日本を含む様々な国からの研究者がきました。研究における科学的に妥当な方法論や医療制度が主な主題でしたが、それに労働事情や医学に関する研究も行われました。2012 Victor R. Fuchs Awardを受賞されたMark Pauly教授(University of Pennsylvania)をはじめ、数多くの著名な研究者の講演を聴くことができました。特に、Joseph Newhouse教授(Harvard University)、Frank A Sloan教授(Duke University)、Michael Grossman教授(City University of New York Graduate Center; National Bureau of Economic Research)が医療経済や医療制度を研究する研究者向けの講演が、個人的には一番印象的でした。

自分の発表について

今回、私は初めて海外の国際学会に参加し、口頭発表を行いました。会場ではアメリカだけでなく、日本を含むアジア、ヨーロッパなど様々な国から大勢の研究者が集まり、活発なディスカッションが行われていました。私の発表を通じて、国々によって異なる医療制度をお互いに理解した上で、日本における当研究成果を発信し、多くの研究者話し合う機会が持ったことができました。また、熱心に研究する方々と話し合うことで刺激になりましたことも一つの成果だと考えられます。

自分の発表内容は以下になります。

背景: 急速な高齢化と医療技術の発展などにより、医療費が増え続けているなかで、医療費適正化のための具体的な取組が行われた。しかし、医療費を削減することが医療の質の低下につながる可能性があるため、それらの関係を検討する必要がある。しかし、日本ではそれらの関係を検討した研究は行われていない。また、病院のストラクチャと医療の質との関連が知られているため、医療費と医療の質との関係をみるためには病院のストラクチャを考慮し、病院レベルでそれらの関係を検討する必要があるだろう。

目的: 本研究では、急性心筋梗塞における病院医療費と医療の質にどのような関係があるかを検討する。

結論: 心筋梗塞において、医療費が高い病院群で30日以内リスク調整入院死亡率が低く、プロセス臨床指標は高くなる関連が見られた。

その他について

海外で研究発表をするというような機会は滅多になく、また自分自身の研究についても別の視点から見ることができたことから考えると、今回の国際学会での発表はこれから研究をまとめていく上で非常に大きなものになったと思います。このようなプログラムが今後も続いてほしいと強く思います。

最後になりましたが、このような機会を与えていただいた京都大学財団、およびサポートしていただいた方々に深く感謝いたします。心より感謝しております。ありがとうございました。